

21日 水曜

使徒

2:14 ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。

2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているではありません。

2:16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。

2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

2:18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。

2:19 また、わたしは上は天に不思議を、下は地にしるしを現れさせる。それは血と火と立ち上る煙。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。

2:21 しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。』

教会を建て上げるための聖霊の働きの第二は、幻と夢を見させて預言させるということです。かつてそのようなことは預言者という特別な人だけに限られていましたが、今や老若男女誰でもそのような賜物が与えられ得るということです。もちろん聖霊によって。

言うまでもありませんが、預言とは神様のことばを預かって、それを明らかにすることです。



ら、当然聖書が不可欠です。聖書こそが神のことばだからです。この「ヨエルによって語られたこと」も聖書そのものです。

しかし、ただ聖書を知識として語るのではなく、現実の出来事として、また自分（または自分たち）の現実に語られたこととして、聞き、そして現実を悟ることができるのです。

そして神様の大いなる計画の中で、今が「終わりの日」に近いことを知りつつ、救いを伝えて行くという使命があるのです。

色々な意味で、つまり人生も、この世相も、またこの世界そのものも、いつまでも続くわけではありません。終わりが近づいているのですから、聖霊に満たされることを求め、神のことばを預言（預かって、それを伝える）しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

